

サマリア人 Samaritans

▶サマリアの名の起源

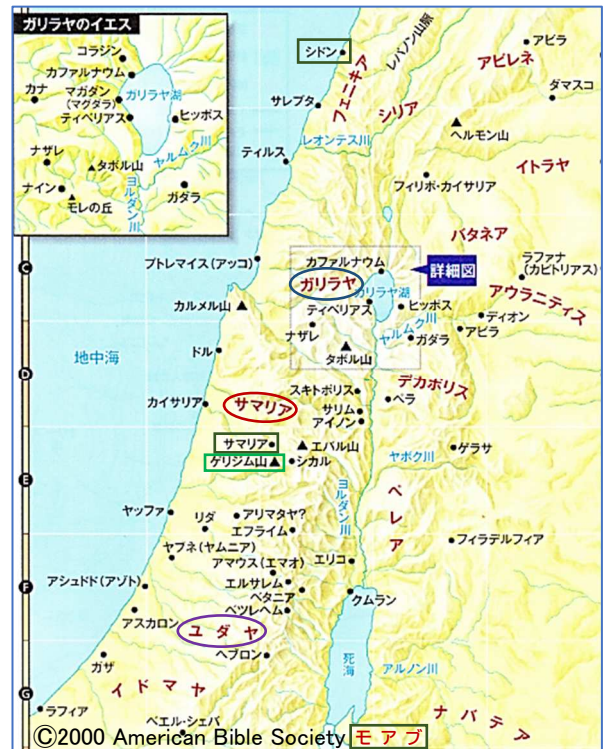
サマリア (Samaria) は、パレスチナ中央部の地域名で、北にガリラヤ、南にユダヤが接する。

「列王記」によると、サマリアという名前は昔この辺の土地を持っていた地主「シエメル Shemer」の名前が起源とされる。

→列王記上 16 : 23～24

ユダ (南王国) の王アサの治世 (BC911～870/913～873) 第三十一年に、**オムリ**が (北) イスラエルの王 (BC885～874) となり、十二年間王位にあった。

彼は六年間ティルツァで国を治めた後、シエメルからサマリアの山を銀二キカル (約 34 kg/キカル×2 = 約 68 kg, Ag80 円/g×68 kg ≒ 544 万円) で買い取り、その山に町を築いた。彼はその築いた町の名を、山の所有者であったシエメルの名にちなんでサマリアと名付けた。



【参考】オムリ(北イスラエル王国第6代王)

列王記に記されている以上に実際には王として成功を収めた (列王記 16 : 21～27)。**モアブ**を支配し、息子の婚姻を通して**シドン**と同名を結び (16 : 31)、サマリアを築いて首都とした。しかし、この卓越した政治力も信仰の面では発揮されなかった (16 : 25～26、ミカ書 6 : 16)。

▶サマリア人の起源

BC722 年、北イスラエル王国は、アッシリアに滅ぼされ属領 (住民を奴隷として連れ去り [アッシリア捕囚]、その代わりにメソポタミア北部のチグリス川とユーフラテス川の上流域にアッシリア人、アラム人を移住させた) となる。この移住してきた異民族であるアッシリア人、アラム人と混血したユダヤ人がサマリア人で、異教徒としてユダヤ人から排斥された。

サマリア人は**ゲリジム山** (モーセによって祝福の象徴とされ、サマリア人の聖地、申命記 11 : 29、27 : 12、ヨシュア記 8 : 33、士師記 9 : 7) に神殿を持っていて、独自の解釈をしていたので、ユダヤ人はサマリア人をイスラエルの神に忠実でないと考えていた。

サマリア人は**ゲリジム山** (モーセによって祝福の象徴とされ、サマリア人の聖地、申命記 11 : 29、27 : 12、ヨシュア記 8 : 33、士師記 9 : 7) に神殿を持っていて、独自の解釈をしていたので、ユダヤ人はサマリア人をイスラエルの神に忠実でないと考えていた。

①サマリア人はユダヤ教と偶像礼拝が混合した宗教を受け入れた。

→列王記下 17 : 26～28

彼らはアッシリアの王にこう告げた。「あなたがサマリアの町々に移り住ませた諸国の民は、この地の神の掟を知りません。彼らがこの地の神の掟を知らないで、神は彼らの中に獅子を送り込み、獅子は彼らを殺しています。」アッシリアの王は命じた。「お前たちが連れ去った祭司の一人をそこに行かせよ。その祭司がそこに行って住み、その地の神の掟を教えさせよ。」こうして、サマリアから連れ去られた祭司が一人戻って来て**ベテル** (→エルサエムの北約 20 kmにある、重要な礼拝の地) に住み、どのように主を畏れ敬わなければならないかを教えた。

②サマリア人の信仰は、①神が唯一の神である、②モーセが唯一の預言者である (サマリア神学)、③モーセ五書 (サマリア五書) だけが唯一不変の啓示である、④ゲリジム山が唯一の聖所である、⑤ 天地創



造から 6000 年後、ゲリジム山の神殿とサマリア人の繁栄を回復する **タヘブ(回復者)** が現れて新しい統治を始める、に要約される。

➤ユダヤ人とサマリア人との間にある教理や礼拝を巡る対立

- ①かつてサマリア人は、エルサレムに神殿を再建することに参加したい（エズラ記 4：1～2）と願い出たが、周辺異教文化の人々との結婚やユダヤ人にとって正当でない見解の故に、その願いは聞き入れられなかった（結果として、サマリア人は自分たちの神殿をゲリジム山に建てた）。それが理由からか、ネヘミヤがエルサレムの城壁を建てのに専念していた時、サマリア人は、それを阻止しようと激しく邪魔をした（ネヘミヤ 3：33～6 章）。
- ②サマリア人は、モーセが特別に礼拝する場所として示したのはゲリジム山だと主張し、そこに自分たちの神殿を建て、偶像礼拝の宗教が始まった。
- ③サマリア人はモーセの五書だけを受け入れ、他の書やユダヤ人の伝統を拒絶した。

以上のような理由から、ユダヤ人とサマリア人との間には和解できない違いが起こり、ユダヤ人はサマリア人を最悪の人種とみなし（ヨハネによる福音書 8：48）、彼らとは全く付き合いをしなかった（ヨハネによる福音書 4：9）。

ユダヤ人とサマリア人との間の深い溝があつたにもかかわらず、イエスは、サマリアの女に平和の福音を宣べ伝えて（ヨハネ 4：6～26）、その壁を壊されました。そして、イエスの使徒たち（ペトロ、ヨハネ）もイエスに従い、サマリアの多くの村で福音を告げ知らせました（使徒言行録 8：25）。

【参考】新約聖書にある「サマリア人」(旧約聖書では、列王記下 17:29 のみにサマリア人が登場する)

タイトル(書名)	章:節 聖句	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: サマリア人]
S マタイによる福音書	10:5 イエスはこの十二人を派遣するにあたり、次のように命じられた。「異邦人の道に行ってはならない。また、サマリア人の町に入ってはならない。→イエスの時代、ユダヤ人の中には、決して異邦人と付き合うべきではないと信じている者やサマリア人を嫌悪する者もいた。	
S ルカによる福音書	9:52 そして、先に使いの者を出された。彼らは行って、イエスのために準備しようと、サマリア人の村に入った。	
S ルカによる福音書	10:33 ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、	
S ルカによる福音書	17:16 そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だった。	
S ヨハネによる福音書	4:9 すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。	
S ヨハネによる福音書	4:39 さて、その町の多くのサマリア人は、「この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。	
S ヨハネによる福音書	4:40 そこで、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるようにと頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。	
S ヨハネによる福音書	8:48 ユダヤ人たちが、「あなたはサマリア人で悪霊に取りつかれていると、我々が言うのも当然ではないか」と言い返すと、	